| 群教セ | G11 - 01 |
| --- | --- |
| | 平16.220集 |

# 活動に願いや思いをもって取り組みながら、相互理解を深める学級活動の工夫

## ── 自分のできることを考える『ＣＡＮカード』の活用を通して ──

特別研修員　　内藤　浩志　　（新町立新町第一小学校）

《研究の概要》

本研究は、「ＣＡＮカード」と「ＣＡＮ・ふりかえりカード」の活用を通して、相互理解を深める児童の育成を目指した実践的研究である。異年齢集団活動の『なかよしそうじ』を中心に、毎回の活動時に自分のできることを考える「ＣＡＮカード」の活用により願いや思いをもって活動に取り組ませ、「ＣＡＮ・ふりかえりカード」の活用により、相互理解を深めることができることを明らかにするものである。

【キーワード：特別活動　小学校　学級活動　話合い　カード　振り返り】

## Ⅰ　主題設定の理由

児童はだれでも、毎日楽しくありたいと願っており、特に生活時間の長い学校生活が楽しいか否かは児童にとって重要な課題である。楽しいか否かは、学校生活の中の様々な活動への取り組み方と子ども同士の人間関係によるところが大きいと考えられる。

本学級児童（小学校６年生　男子 18 名　女子 16 名）の日頃の係活動や清掃活動の様子を見ると、自分から積極的に判断して行動できる児童は２，３人いるが、指示されれば動けるというような指示待ちの児童が多い。子ども達は素直で明るく、何事にもまじめに取り組む児童が多い。本校は教科担任制なので、一日中子どもたちの様子を見ることはできないが、各教科や専門委員会の担当から、責任感ある児童も数名いることや当番活動など忘れてしまう児童、人に流されて活動できなかった児童もいることも聞いている。全体的には、何事にもまじめに取り組むが、活動への願いや思いが全体的に弱いために自発的な活動が十分でない現状にある。自発的な活動が常日頃からできる児童を育てるためには、学級に対する所属感を持てるような心から楽しいと思える学級作りが大切であると考える。

子どもに『心から楽しいと思える学級』とはどんな学級なのか児童にアンケート調査をし、教師の考えと照らし合わせてみると、『お互いが理解し合う学級』が考えられた。「お互いが理解し合っている状態はどんな状態」で、「お互いが理解し合うにはどうしたらよいか」を、児童の考えを参考に児童の実態に即して考えてみた。段階ごとに表してみると、①『お互いのことをよく知る』こと、②『お互いの違いを認める』こと、③『他の人を尊重する』ことが考えられた。

そこで本研究では、相互理解を深めるために、お互いのことをよく知る活動に視点をあてることにした。友だちを知るには、まず自分を知る必要があると考えた。自分を知るには、自分のよさを発揮でき、自分らしさを実感できる活動を考える必要がある。また活動の振り返りとして、自己評価や反省・感想、教師や友だちからの励ましのメッセージを交流する活動を行えば、相互理解が深まると考えた。こうした活動により、児童が目指す学級作りができると考え、本主題を設定した。

## Ⅱ　研究のねらい

異年齢集団活動『なかよしそうじ』において、事前に「ＣＡＮカード」で考えをまとめ、願いや思いを意識した活動に取り組ませ、活動後に「ＣＡＮ・ふりかえりカード」で自他を知る活動を行なうことにより、児童の相互理解が深まることを実践を通して明らかにする。

## Ⅲ　研究の見通し

１　異年齢集団活動『なかよしそうじ』において、「ＣＡＮカード」で、「自分には何ができるか？　　何がしたいか？」を考えさせることと、活動後に「ＣＡＮ・ふりかえりカード」で、反省や感想を書いたり、教師からのメッセージを読むことを繰り返すことにより、自分自身の願いや思いを生かした取り組みができるとともに、自己理解が深まるであろう。

２　『なかよしそうじ』の自分の取り組みを振り返ると共に、『なかよしそうじ』の良い仕方と悪い仕方について役割演技をすることにより、人それぞれに感じ方やとらえ方が違うことに気付き、それぞれに価値があることが理解できるであろう。

３　「ＣＡＮ・ふりかえりカード」の「お助けメッセージ」を書いてくれた友だちに、お礼のメッセージカードを贈り、その友だちの「いいところ」を発表し合うことで、自己理解と相互理解が深まるであろう。

## Ⅳ　研究の内容

**全体構想図**

[学校教育目標]

心身ともにたくましく、自ら学ぶ意欲と思いやりの心を持ち、
人・自然・郷土を愛する、人間性豊かな児童の育成に努める

[目指す児童像]

お互いに理解し合える児童

[研修主題]

活動に願いや思いをもって取り組みながら、、相互理解を深める学級活動の工夫
ー自分ができることを考える『ＣＡＮカード』の活用を通してー

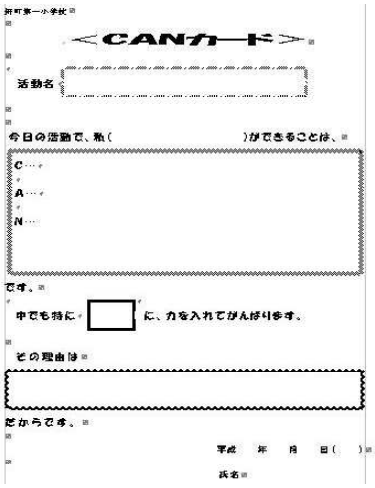
| 目　指　す　児　童　像 | 活動の場 | 主な手立て |
|---|---|---|
| 自他を知り、お互いに理解を深め合う児童 | 学級活動⑤ 11月17日<br>（見通し３） | ・友だちへお礼のメッセージを書く<br>・友だちのいいところを見つけ発表する |
| 人それぞれ物事に対する感じ方やとらえ方が違うことに気づける児童 | 学級活動④ 11月10日<br>（見通し２） | ・なかよしそうじの仕方のロールプレイ<br>・体験談を語る |
| 相手の立場に立って考えられ、自分を見つめることができる児童 | 学級活動③ 10月22日<br>（見通し１） | ・５年の時の立場や考え方と現在の６年としての立場や考え方を対比して考える |
| 願いや思いをもって、自分のできることを自分で考えられる児童 | 『なかよしそうじ』<br>（見通し１）9月16日～ | ・「ＣＡＮカード」の活用<br>・「ＣＡＮ・ふりかえりカード」の活用 |
| ＣＡＮカードを使い、自分のめあてを持って諸活動に頑張って取り組もうとする児童 | 学級活動② 9月10日 | 学級活動①で児童が自ら見つけた活動を取り上げ各自に考えさせることで、ＣＡＮカードの意義を確認させる |
| 学級内の活動には何があるか、自ら気づける児童 | 学級活動① 9月3日 | ・学級内で必要な活動を洗い出す |

## 1　基本的な考え方

(1)　「ＣＡＮカード」とは

ある活動をする時に、「この活動で自分のできることは何だろうか？」と考えさせ、できることや頑張ろうとすることを書かせるカードである。本研究では、できるだけ多くの活動を設定し、自分のできることを常に意識させたい。自分のできることを考えることにより、意識した取り組みができ、また自己の再確認と新たな自分の能力の発見へとつながり、自分をより深く知る手立てとなるであろう。なお、「ＣＡＮカード」は、修学旅行、体育、合唱練習の場面で活用してきたが、本研究では『なかよしそうじ』での活用を中心に述べる。

資料1　CANカード




(2)　「ＣＡＮ・ふりかえりカード」とは

ＣＡＮカードとセットになっているカードであり、ＣＡＮカードに書いた取り組みを実践してみて、振り返っての自己評価や感想を書くカードのことである。自己評価をすることで、取り組みを細かく振り返り、次の活動への目標設定に役立つと考える。自己評価後に、「ふりかえりメッセージ」に反省点や気づいた点、今後の活動に生かす点や改善点などを書かせることで、深く活動を振り返ることができ、より自己を深く見つめ、自己理解に役立つと考える。さらに、児童の取り組みを陰から支えるための「お助けメッセージ」に教師や友だちからの励ましやアドバイスを書いてもらうことで、今まで自分では気づかなかった自分に気づくことができたり(自己理解)、友だちの考えに触れることができ、他者理解や相互理解にも役立つと考えた。

資料2　CAN･ふりかえりカード

(3)　「願いや思いを育てる『なかよしそうじ』」

『なかよしそうじ』とは、本校において実施されている異年齢集団活動（全校児童を４つの団に分けて取り組む団別活動）の一つである。毎週木曜日の通常の清掃時間に縦割集団ごとに決められた清掃場所を、班長である６年生のリーダーシップのもと、清掃する活動である。これまで班長などリーダーとしてまとめる活動を経験してこなかった６年生や苦手にしていた６年生もいる。しかし、班の数を多くして、６年生の多数が班長になることにより、リーダーとしての新たな自分を知る上で有効な取り組みである。

願いや思いを育てるために、ＣＡＮカードを活用する。『なかよしそうじ』における『願い』とは、「なかよしそうじでは、みんなが仲良く楽しく掃除してほしい」という、理想とする活動の姿への願いであり、『思い』とは、「そのためには、班の中心として、私には～ができる。だから頑張ろう」という活動意欲と考えた。

(4)　「自己理解」から「相互理解」へ

『なかよしそうじ』において、児童の願いや思いを育てることにより、自分自身を深く

見つめ、自己理解につながると考えた。「ＣＡＮカード」と、「ＣＡＮ・ふりかえりカード」の自己評価欄とふりかえりメッセージ欄、そして教師と友だちからのメッセージ（お助けメッセージ）を活用して見出された自分の性格や自分ができること（可能性）を自分なりに捉え、自己理解を深めることとなる。また、「ＣＡＮ・ふりかえりカード」の「お助けメッセージ」を活用して、自分の考えをもとに、友だちの見方や考え方など、友だちの良さや互いの違いを謙虚に受け止め認め合うことにより相互理解の深まりにつながると考えた。「ＣＡＮカード」と「ＣＡＮ・ふりかえりカード」を活用することで、お互いのことをよく知り、お互いのよさや違いをより多面的に捉え、それを謙虚に受け止め認め合うこと（理解を深める）ことができると考えた。

## 2　実践の概要及び結果と考察

考察にあたっては、抽出児童（M男）の活動ごとのＣＡＮカード及びＣＡＮ・ふりかえりカードの記述、授業後の感想、生活ノートの記述をもとに行なう。アンケート結果などは、学級全員（34 人）分を集計したものである。

抽出児M男：５年生の時は、自分の気持ちが乗らないと何も手をつけず、勝手なことを始めたり、自分が嫌なことからは逃げてしまう状態であった。特にみんなで何かを協力して取り組むということが苦手な児童であった。６年生になった現在、自己中心的な言動をとることもあるが、学級にも溶け込み、他の仲間とも同じように集団生活ができるようになってきた児童である。本題材では、ＣＡＮカード及びＣＡＮふりかえりカードを活用させることにより、活動意欲を喚起し、自分のいいところや可能性、そして友だちのいいところを発見し、自己理解や相互理解をさせたい。

(1)　「ＣＡＮカード」と「ＣＡＮ・ふりかえりカード」を活用することにより、自分なりの願いや思いを生かした考え方や取り組むとともに自己理解が深まるであろう。（見通し１）

ア　実践の概要

児童の意識や活動の変容をみとるために、ＣＡＮカードを活用した「なかよしそうじ」の取り組みを中心に据えた。「なかよしそうじ」については、９月９日（木）から毎回欠かすことなくＣＡＮカードを６回活用した。５回のＣＡＮカードを活用した取り組みをした後、５年生の時の立場や考え方と現在の６年生としての立場や考え方を対比して考えることをさせた。次に、「なかよしそうじ」の振り返りを行なうことは、自己を見つめ、自分を知ることをねらいとして、テーマ『なかよしそうじをふりかえろう』で学級活動を行なった。

イ　結果と考察

９月９日（木）、１回目のＣＡＮカードがスタートしたが、M男の設定した自己目標（自分にできること）の中には、ただ一般的なことを記述したのみで、具体的な内容については触れられていなかった。活動後の「ＣＡＮ・ふりかえりカード」の「お助けメッセージ」では、児童ができた部分についてのみ誉め、励ました。

９月 16 日のＣＡＮカード（資料３）では、前回の教師からの励ましなどが影響してか、前回、目標が達成されなかった自己目標を重点目標としており、意識して取り組もうとする姿が見られた。ここで教師からの「お助けメッセージ」では、自己評価が５について誉めたメッセージと児童の設定理由の記述を意識したメッセージを贈ったところ、次回の目標設定理由に反映されていた。これは、「お助けメッセージ」を通じて会話できたことを意味しており、活動の意欲化に有効な手立てであったと考える。

９月 30 日のＣＡＮカード（資料４）では、重点目標に、「ピカピカにする」というM男なりに具体的な目標が設定され、「なかよしそうじ」に対しての思いが強くなってきた。

10 月７日のＣＡＮカードでは、字も汚く乱暴に書かれており、M男にとっては友だちとの

トラブルがあり、気持ちが乗っていない時であった。活動後の自己評価も低かった。そこで、「お助けメッセージ」として、自分のことよりも下級生の児童の立場に立ったものの考え方をするようメッセージを贈ったことで、次回 10 月 14 日のＣＡＮカードの自己目標の中に、「一生懸命にやる」や「最後に達成感を持てるようにする」など、気持ちの面の記述がされていた。気持ちの面の記述がされていたということは、班員の気持ちについて考えられてきたことの表れであり、なかよしそうじの意義と６年生としての自分の立場を自覚できてきたのだと考える。

10 月 22 日の学級活動後のM男のＣＡＮカード（資料５）の自己目標では、「みんなで協力できるようにする」があり、これは今までになかった内容であった。また意欲の表れとして、「群馬県で一番きれいな学校にする」という大きな目標設定をしていた。目標設定理由の「いつでもお客さんが来て、『きれい』って言ってもらいたいから」という記述からは、他から評価してもらっても、高い評価がもらえるようにと広い視野にたった考え方が少しずつ出てきたことがわかる。６回のＣＡＮカードの記述から考えられたことは、１回目から４回目までは自己中心的なものの考え方により自己目標を設定しており、５回目からは少しずつ視野が広がり、周りを見る目が育ってきたということである。児童それぞれ取り組みの度合いは違うが、続けて取り組んでいくことにより、自分の取り組みを振り返りながら自己理解ができ、班活動を活性化させるためのよりよい具体的な手立てを考えて願いや思いをもった取り組みが少しずつ行なわれているように感じた。

６回のＣＡＮカードの記述を確認すると、次の２点の変化が見られた。①書かれる自己目標が抽象的な内容から、取り組みやすい具体的な内容へ変わってきたこと、②自分中心の取り組みに関する内容から、班全体へ目を向けた広い視野に立った内容になってきた。その変化の要因は、「なかよしそうじ」のＣＡＮカードに書かれる自己目標がＣＡＮ・ふりかえりカードの「お助けメッセージ」に書かれる教師の励ましやアドバイスを受けて、次回のなかよしそうじの目標設定ができたと考えられる。「ありがとう、また次も頑張ります」や「アドバイス通りやったら、１年生が動いてくれました」、「恥ずかしかったけど、はっきり指示できて気持ちよかった」などの感想から、今まで気づかなかった自分や自分の可能性を見い出すこと、願いや思いを生かした取り組みができたことにより、自分の可能性を信じたり、自分の考えや活動のよさに気づき、自己理解を深めたと考える。

**資料３　M男のＣＡＮカードとＣＡＮ･ふりかえりカードの教師からのお助けメッセージの記述**

＜２回目記入 9 月 16 日＞◎は重点目標　　5段階評価

| 自己目標（自分にできること） | 自己評価 |
|---|---|
| ◎きれいにすること（前回の評価は３） | 5 |
| ○学校をきれいにすること | 5 |
| ○最初から最後までちゃんとする | 5 |
| 目標設定の理由：学校をきれいにするといい学校が作れるから | |

（お助けメッセージ）

すべてカンペキなんてすごいことですね。今度、みんなにお手本を見せてください。学校をきれいにすると気持ちいいですね。

**資料４**

＜３回目の記入 9 月 30 日＞

| 自己目標（自分にできること） | 自己評価 |
|---|---|
| ○最初から最後までそうじをする | 4 |
| ◎ピカピカにする | 5 |
| ○学校をきれいにする | 4 |
| 目標設定理由：学校をきれいにすると気持ちいいから | |

（お助けメッセージ）

力を入れようと考えた２番目が、最高の５ですよ。よくがんばったことがよくわかります。一生懸命やったので、とても気持ちよかったことでしょう。

**資料５**

＜６回目の記入 10 月 22 日＞

| 自己目標（自分にできること） | 自己評価 |
|---|---|
| ○最初から最後までやる | 5 |
| ○みんなで協力できるようにする | 4 |
| ◎群馬県で一番きれいな学校にするため。 | 3 |
| 目標設定の理由：いつでもお客さんがきて、「きれい」って言ってもらうため | |

（お助けメッセージ）

とても大きな目標が立ちましたね。素晴らしいことですね。これは、M君がなかよしそうじで頑張ってきた成果ですね。

学級活動③では、「なかよしそうじ」に参加した５年生の６年生に対する意識調査結果を知らせたり、５年生が６年生になったときに、「なりたい班長像」を音声で聞かせた。その結果、授業後の感想の中でも 95%以上の児童が他学年への配慮に関しての内容と自分の取り組みを振り返っての内容が記述されていたこと、また、その後の取り組みの様子からも「なかよしそうじ」の意義が確認でき、今後の取り組みへの意欲と自覚が高まってきた。自分の今までのＣＡＮカードで自分を振り返らせる活動も行なったことにより、自分の取り組みを客観的に見つめ、自己理解を深めたと考えられる。児童それぞれ取り組みの度合いは違うが、ＣＡＮカードを継続的に活用することにより、各自の願いや思いを具体的な手立てとして考え、取り組む意識や態度が育ってきたと考えられる。

(2)　「なかよしそうじ」の振り返りを通して自己理解が深まり、人の様々な価値に気づき理解できるか。（見通し２）

ア　実践の概要

学級の生活班の各６班が、順番に独自で作った台本のもと、「なかよしそうじ」の良い仕方の例と悪い仕方の例のロールプレイを取り入れた学級活動をした。見ている児童は、自分の価値判断で何が良く何が悪いのかを確認し記述する。ロールプレイの後、自分の活動を振り返らせるために、各自の感想や体験談を語らせ、本時の学級活動全体で考えたことをまとめさせた。

イ　結果と考察

児童が作ったロールプレイの台本の内容は実情を反映しており、「なかよしそうじ」についてまじめに考え作成したことがわかる。あらかじめ各班にリハーサルをさせ、教師は演技の中の活動の良い点と悪い点を確認し、本番では、児童に１回だけ見せ、確認させた。２つの例の一方が良い方で他方が悪い方なのかを知らせなかったので、児童は真剣な表情で食い入るように演技を見ていた。後の感想の中でも、「良い例の中でも悪い行為があったり、悪い例の中でも良い行為があったりしたのでチェックが大変でした」というような感想が 10%あることからも深く見ようとした意識を感じた。全部の班が終了した時点で、教師が項目別に気付いた点を挙手させ人数を確認した。資料６から、表面的でよく目立つものことには過半数に近い児童が気が付いていた。中には他の人が気付かないような細かい点まで気付いている児童もおり、感想の中でほぼ 100%に近い児童が「チェックが甘かった」と自分の今までの取り組みを振り返り反省した。つまり、自分のこれまでの掃除への取り組みに関しての自己理解が深められたと考えられる。また体験談を語るよう指導したことで、それぞれ言い方は違うが、「体験談が聞けてよかった」と「みんなそれぞれ色々な取り組みをしているんだなあ」という感想を全員が感じていた。授業の終わりに今後の取り組みまで考えられている児童は 70%であった。授業中にM男も「みんなの話を聞けてよかった。６年でちゃんと掃除ができるようになったというのが多かった。自分も１年ぐらいから５年まで掃除のときは脱走していて、自分も６年から清掃ができてきたけど、まだ不十分だった」という感想を挙手して発表した。M男も他の児童も自分たちの取り組みを振り返り、それをもとに、自分では気づかないところを友だちは気づき、その逆もあることを、「なかよしそうじ」の取り組みから共に気づき考えられた。このことから、人の持つ様々な価値に気づき、理解できたと考える。

**資料６**　「なかよしそうじ」のロールプレイから児童が気付いた良い点と悪い点の場面

| | |
|---|---|
| ＜良い点＞ | |
| ・1年生への手助け | …82% |
| ・掃除場所がわからず泣いていた1年生を担当まで連れて行った | …60% |
| ・下学年への優しい声かけ | …59% |
| ・バケツの水をこぼしてしまった人の手助け | …58% |
| ＜悪い点＞ | |
| ・黒板への落書き | …68% |
| ・足で拭いている | …57% |
| ・教師がいる時といない時の掃除態度の差 | …56% |

(3)　「お助けメッセージ」を書いてくれた友だちに、感謝の気持ちを贈り、その友だちの「いいところ」を発表し合うことで、自己理解と相互理解が深まるか。（見通し３）

ア　実践の概要

学級活動において、「お助けメッセージ」を書いてくれた人にお礼のメッセージカードを贈り、「なかよしそうじ」の取り組みを踏まえた友だちの「いいところ」を見つけ発表する活動を行なった。友だちの「いいところ」を見つける第１段階として、お助けメッセージを書いてくれた人に限定した。

イ　結果と考察

「お助けメッセージ」を書いてくれたお礼に贈ったメッセージカードは、形や絵など児童それぞれの個性あふれるもので丁寧に仕上げられていた（資料４）。相手へのお礼の気持ちが丁寧な作成につながったことから、友だちのことを真剣に考え、友だちが書いてくれた励ましやアドバイスを謙虚に受け止め、それに対して感謝の気持ちを込めていることがわかった。また、お礼のメッセージカード作成の児童の感想（資料５）から、カードを友だちが見て、相手が喜んでくれるように願いながら作成していることもわかった。お礼のメッセージカードを作成させたことは、友だちからの励ましやアドバイスを通して、より深く自分を見つめることができたことか自己理解が深まったと考えられる。また、相手の気持ちを考えていることから、他者理解しようとする気持ちの高まりに役立ったと考える。M男の作成したカードも絵や色を工夫されており、「ありがとう、（児童の名）も、ちゃんと協力してがんばれ」や「ありがとう、（児童の名）もA、Nがパーフェクトになるようにがんばれ」など、贈った一人ひとりの今後の取り組みに役立つメッセージであった。また、お礼のメッセージカードに関わる一連の活動後のM男の感想は、「作るのは大変だった。贈るのははずかしいけど、もらってうれしかった」と書かれていた。以上のことから、他者理解がこれまで以上に深められたと考える。

見つけた「友だちのいいところ」発表する活動では、感想（資料５）から、友だちからの発表をしっかり受け止めていることがわかる。お礼のメッセージカードと「友だちのいいところ」を発表する活動を通じて、より深くお互いを知ることはでき、相互理解が深まったと考える。

**資料７　お礼のメッセージカード**

**資料８　児童の感想**

| | |
|---|---|
| ＜カード作成中の感想＞ | |
| ・作っていて楽しかった | …29% |
| ・気に入ってくれるか不安だった | …15% |
| ・大変だった | …35% |
| ・その他（前向きな感想） | …21% |
| ＜カードを贈る前の感想＞ | |
| ・渡すのが恥ずかしかった | …15% |
| ・喜んでくれるか不安だった | …17% |
| ・（未記述） | …68% |
| ＜カードを贈られた後の感想＞ | |
| ・うれしかった…97%　・その他…3% | |
| ＜見つけた「友達のいいところ」を発表した後の感想＞ | |
| ・うれしかった | …73% |
| ・いいところがあるんだなあ | …15% |
| ・みんな、人の性格を読み取る力があるんだなあ | …3% |
| ・人それぞれ感じ方が違うことがわかった | …3% |
| ・いいところが発表できて気持ちよかった | …3% |

## Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

### １　研究のまとめ

『ＣＡＮカード』と『ＣＡＮ・ふりかえりカード』を活用した学級活動を通して、活動へ

の自分の願いや思いをもって、目標を意識した取り組みができるとともに、自分や仲間を知ることはできることがわかった。教師や友だちからのメッセージが書かれることで、児童は活動に意欲をもって取り組み、「ＣＡＮカード」の活用を楽しみにしている児童が増えた。

自己理解を深めるためには、「ＣＡＮカード」と教師からの「お助けメッセージ」の活用だけでも有効な手立てであった。相互理解を深めるためには、友だちの持つ価値を謙虚に受け止めなくてはならないので、友だちからの「お助けメッセージ」だけでは友だちを理解するには不十分な面があった。そこで、友だちを理解するために、それぞれが持つ多様な価値を謙虚に受け止められるような学級活動（授業）を取り入れたことが有効な手立てであった。

また、ＣＡＮカードを繰り返し活用させたことや、相互理解をねらった学級活動（授業）を取り入れたことで、視野が広くなり、新たな自分を見い出すことができ、より深く自己理解ができた。これは、より深い相互理解に結びつくものと考える。

## 2　今後の課題

本研究では、『なかよしそうじ』を中心に、「ＣＡＮカード」や「ＣＡＮ・ふりかえりカード」の活用をしてきたが、他の活動で毎回取り組むことで、自他の良い面を多面的にとらえることができると考える。また、本研究では、「心から理解し合えるような、相互理解ができている姿」がはっきりつかめていないため、心から理解し合えるような相互理解ができたかどうかは、疑問が残る。相互理解が深まった姿や相互理解ができた姿を具体的に考えていき、手立てを講じる必要性を感じた。

＜参考文献＞

・秋川　政則　編著　『やる気を育てる小学校の学級経営』　　明治図書（１９９２）
・成田　國英・中島直孝・齋藤隆士　編著　『新しい特別活動、よい活動の条件』　　東洋館出版社（１９９１）
・宮川　入岐　編著　『特別活動　基礎・基本と学習指導の実際　　ー　計画・実践・評価のポイント　ー』　　東洋館出版社（２００２）
・『新しい学力観に立つ特別活動の指導の創造』　　文部省（平成５年９月）
・『新しい学力観に立つ特別活動の授業の工夫』　　文部省（平成７年 10 月）